



No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日																					
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者			年齢	性別	特記事項	発生時状況				ソフト面				ハード面				環境面					人的面																				
						人数	異年齢構成の場合の内訳					うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位				マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	道具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか		その他要因・分析・特記事項	改善策																			
1366	平成29年6月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4月 1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	61	0歳	1歳	2歳	3歳					4歳	5歳以上	学童																	その他			6	6	15.3歳	2.女児				1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3.基準以上配置	マニュアルは指標であるので、予測されない事態への対応への心掛けが必要がある。	事故発生後の、事故後の異変の異変を十分に把握し、速やか医療機関との連携を図る。
1367	平成29年6月30日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5月 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59			21	18	20				6	6	17.5歳	1.男児				1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	新しい遊具であったため、過去の事故事例、危険な使用などデータの蓄積がなかった。	同様の遊具が過去に保育士が感した危険性を事前に共有する。	改善策	2.不定期	不定期・随時	1.定期的	12	不定期・随時	園庭に設置された浅い、新しい遊具であったため、過去の事故事例、危険な使用などデータの蓄積がなかった。	園庭に設置された浅い、新しい遊具であったため、過去の事故事例、危険な使用などデータの蓄積がなかった。	マットを敷く、下を砂場にするなど検討中。(現在は一時使用中)	園庭に設置された浅い、新しい遊具であったため、過去の事故事例、危険な使用などデータの蓄積がなかった。	遊具から落下したため、周囲の見守りや適切な対応が必要である。	1.いっもどりの様子であった	様子はいっもどりが変わった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	うんていをしていて途中で落ちた。うんていをしていない子どもの体を支えようとしたところ、うんていから落ちてしまった。	2.担当児の動きを見ていた	うんていをしていて途中で落ちた。うんていをしていない子どもの体を支えようとしたところ、うんていから落ちてしまった。	うんていをしていて途中で落ちた。うんていをしていない子どもの体を支えようとしたところ、うんていから落ちてしまった。	渡る際だけでなく、十分に注意するよう指導する。				
1368	平成29年6月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10月 8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	83		22	26	35				5	3	16.4歳	2.女児				2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性亜脱臼	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	マニュアルの作成もしており、研修もしている。職員配置にも問題はなかった。	マニュアルを再度見直し、さらなる事故防止に努める。	改善策	1.定期的	300	1.定期的	12	1.定期的	今回の事故に関して、施設、設備は全く影響していない。	再発防止に必要はない。	3.個人活動中・見守りあり	くすぐるのを止めた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	廊下で他の園児と遊んでいた。	2.担当児の動きを見ていた	担当配置場所での他の園児を見ていた。	見守り、声掛けが不十分だった。	子どもたちを遊び方を指導していく。							
1369	平成29年6月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	3月 7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28		9	19					4	2	16.4歳	1.男児				1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	マニュアルの作成もしており、研修もしている。職員配置にも問題はなかった。	マニュアルを再度見直し、さらなる事故防止に努める。	改善策	1.定期的	300	1.定期的	12	1.定期的	今回の事故に関して、施設、設備は全く影響していない。	再発防止に必要はない。	3.個人活動中・見守りあり	周りに目を配り、追いつくことを意識し、友達を避け、再発防止に努める。	小園庭に職員が1人配置されていたが、園児の見守り、声掛け指導が不足していた。	1.いっもどりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	小園庭で他の園児と一緒に遊んでいた。	2.担当児の動きを見ていた	室内で他の園児を見ていた。廊下担当が本音が聞こえるのを廊下から発見する。	見守り、声掛けが不十分だった。	段差があるところでは、気を付けるよう声掛けを行う。						
1370	平成29年6月30日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4月 1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	55								4	4	17.5歳	1.男児				2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	子どもの行動や危険性を再認識し、見守りを十分に行う。	子どもの行動や危険性を再認識し、見守りを十分に行う。	改善策	1.定期的	12	1.定期的	12	1.定期的	「安全点検表」を作成し、毎月記録しているが、教育・保育中の安全管理には、施設、設備等の環境整備が必要であることから、随時、環境整備等を講ずることとしている。	子どもの行動や危険性を再認識し、見守りを十分に行う。	3.個人活動中・見守りあり	1.いっもどりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くにつまみずいた瞬間に手を伸ばしたが間に合わなかった。	1.担当児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の近くにつまみずいた瞬間に手を伸ばしたが間に合わなかった。	園児自身や安全を確認するよう再度、遊び方の注意を促すこととする。								



No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況							事故状況													事故発生の要因分析													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰							ソフト面						ハード面							環境面			人的面					
						人数	異年齢構成の場合の内訳						うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	死亡 死因	負傷 負傷状況					6. その他	4. 上肢 (腕・手・手指)	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策								
							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上																													学童	その他	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	4. 基準以上配置	1. 定期的に実施	
1375	平成29年6月30日	認可	認可保育所	3. 2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	25									2	2	16.4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	右母指圧挫傷、右母指末節骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	4. 基準以上配置	ロッカーのすき間に指を挟むことを想定し、人数、片付けの仕方等に配慮する	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	12	危険箇所を職員全員で点検。その都度改善していく	1. 集団活動中・見守りあり	年1回は業者を依頼しているが、危険箇所は保育士がその都度チェックし修繕する	1. いつもの様子であった	製作を終え、片付けを行う子どもを見守っていた。隣近くで片付けていたので、気をつけようと言いかけていた。製作中は、対象児の至近で対象児を見ていた	2. 担当児の動きを見ていなかった	製作中の子どもに対応していたが、見ていなかった	製作時の見守りが十分でなかった	保育者が活発な動きを認め、見守りを行っていた			
1376	平成29年6月30日	認可	認可保育所	1. 2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	36	6	8	9	13				6	6	16.4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	左上A外傷性歯牙脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3. 基準以上配置	散歩中のマニュアルにある歩行のペースをあわせることになっていた。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	12	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	保育内容、保育状況には問題がないと思われる。	1. いつもの様子であった	転ぶときに手を打ったことから、歯の動きに弱いと思われる。	3. 対象児から離れたところで見守っていた	列の後方を歩いて、走った瞬間、転んだ	2. 担当児の動きを見ていなかった	転んだ隙を見ていなかった	散歩を誘導する職員が子ども達の歩く様子をよく見て、ペースを配慮し、さらに間隔があいてしまったときには走らなないように声をかけを徹底するよう周知した。また、本児が噛む傾向にあるため、状況に応じて職員の手をつなぐ等の配慮をしていく。乳児が散歩に行くには人数が多かったと思われる場所に行く際にも職員間で把握ができる人数を考えて散歩を行うようにする。			
1377	平成29年6月30日	その他	13. 子育て援助活動支援事業(ファミリートーク・サポートセンター事業)	5. 8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)											16.4歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・手指)	骨折(全治2ヶ月)	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施								3. 個人活動中・見守りあり	当該提供会員は施設へ送迎を何度か行っているが、今回の問題はないと思っていた。	子どもを離さないよう伝える。	4. 対象児の動きを見ていなかった	保育サークルの職員へお迎えに来た旨を報告していた。	2. 担当児の動きを見ていなかった	提供会員より、お迎えに来た旨の報告を受けていた。							
1378	平成29年6月30日	その他	15. 放課後児童クラブ	3. 8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8. 学童	46							5	2	19.7歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右第一基節骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	3. 未実施	1. 基準以上配置	事故予防マニュアル、研修ともに実施されていた。	事故予防に関する研修を実施した。	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	1	中庭には遊具が滑り台1つしかないが、児童が集中してしまう状況がある。	1. 集団活動中・見守りあり	滑り台の台の上にいる人数を2名までとすると、児童が滑り台1つしかなく、児童が集中してしまう状況がある。	2. 2名以上で遊ばせる場合は、必ず支援員が見守るようにする。	1. いつもの様子であった	自由遊びの時間、支援員2名、補助員3名で指導していたが、支援員は遊んでいて、対象児は誰かを見ていなかった	2. 担当児の動きを見ていなかった	中庭で遊んでいる児童を補助員3名で指導していたが、対象児は遊んでいて、支援員は誰かを見ていなかった	滑り台等の遊具から危険を排除することは難しいため、認識を職員間で共有し、滑り台には常に1名以上見守りを実施していた。					

No	概要				発生時の施設・事業体制							事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析													掲載更新年月日											
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制							教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員等	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面			ハード面			環境面			人的面													
						人数	異年齢構成の場合の内訳					0歳						1歳	2歳	3歳		4歳	5歳以上	学童	その他	死亡 死因	負傷 負傷状況	診断名 受傷部位	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項		改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか
1379	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	61							5	1	23.11歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首刺刺骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	-	事故予防マニュアルを策定し、事故発生の予防に努める。	2.不定期に実施	1.定期的 に実施	2.不定期 に実施	旧幼稚園施設を児童クラブとして活用しており、遊具が低年齢児童を対象としたものとなっている。本件児童は身長が高く、手足が長かったため遊具が体に合っていなかった。	児童クラブ利用対象児童が高学年児童まで拡大されたことを受け、遊具全般の安全性について見直しを行う。遊具の点検を定期的に行うほか、年齢・体格ごとの危険箇所を把握し、利用児童に注意を行う。	1.集団活動中・見守りあり	多くの異年齢児童が一緒に過ごす長期休暇中などにおいては、遊具で遊ぶ児童を学年等で調整し、均等に職員が目が見えやすいようにする。	1.いっもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離で見えていたものの、主に同遊具を利用する低学年児童を注意していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内において他の児童を見ていた。	-	多くの異年齢児童が一緒に過ごす長期休暇中などにおいては、遊具で遊ぶ児童を学年等で調整し、均等に職員が目が見えやすいようにする。
1380	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	41						3	2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	-	指導員4人体制を原則として、保育を行う。	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	遊具を管理している体制を委員会とこまめに取る。	3.個人活動中・見守りあり	児童が危険な動きをしている場合は、注意をしながら見守りを行う。	1.いっもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	滑り台近くにて他の児童の対応をしていたが、数名が滑り台付下で遊んでいたことにより気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童に対していたため対象児を見ていなかった。	-	指導員は外遊びの際の危険性を再確認し、見守り活動を怠らないように配慮する。児童全員に対しては、危険な遊び方・他の児童への押し方について話し合いを行い危険性を共有する。		
1381	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	16						2	2	20.8歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	-	職員会議等で、ひやりとを避け、事故が起きたとき、指導員が迅速な行動を取れるよう研修をする。 (様々な事故を想定した指導員の動き、連携の仕方など)	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.定期的 に実施	1.今後も引き続き点検する。	3.個人活動中・見守りあり	外遊びをする場合は、職員を2名にする。外遊びをする児童の数が少ない場合は、遊びの内容を制限するなど対応する。	1.いっもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊びをする場合は、職員を2名にする。外遊びをする児童の数が少ない場合は、遊びの内容を制限するなど対応する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の指導員は、クラブ室内1人は休憩中だった。	外遊びをする場合は、必ず職員を2名にする。外遊びをする児童の数が少ない場合は、遊びの内容を制限するなど対応する。			
1382	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	36						4	3	19.7歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左肩鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	-	本児が2年生となり初めてベース鬼で最後まで残った喜び、力以上にやる気とチャレンジしたい気持ち、支援員の状況判断がよっていた。	1.定期的 に実施	開館日 に実施	1.定期的 に実施	2.不定期に実施	ベースに運動マッスを活用せず、ラインに変更し、ベースの位置とする。	1.集団活動中・見守りあり	特に、新1年生も多く来館を始める時期なので、夢中過ぎないよう設定する。	1.いっもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	1名が逃げ役として早くから見ていたが、1名が鬼役として近くで見えていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の部屋を見ていた。	終盤に鬼役の児童が来て帰ったため、鬼役を代行した。	支援員1名は必ず全体の声かけ見守りを行うようにする。	

No	概要				発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの状況				事故状況				事故発生の要因分析												掲載更新年月日												
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月 時間帯	発生場所	発生時の体制										年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面				人的面										
						人数	異年齢構成の場合の内訳						教育・保育等従事者							死亡 死因	負傷 負傷状況	骨折 受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策		教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策				
1383	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.2.午前中	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	44	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	6	2	18.6歳	2.女児	8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1.基準以上配置	入室当初の学童保育室に慣れていない児童への注意を呼びかける。	指導員全員で事故現場や危険場所の確認をし、児童への注意を呼びかける。	2.不定期に実施	2.不定期に実施	2.不定期に実施	入室した児童の危険箇所(下駄箱付近の段差)への配慮が無かった。	見守りを強化し、危険箇所を児童に喚起し、事故防止を促す。	4.個人活動中・子どものみ	テラスの段差が20cmほどあり、一年生にとっては高く、指の配置が不十分だった。	見守りを強化し、ヒヤリ・事例について指導員全員で確認を行う。	1.いつもの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	室内外で見守りしていたものの、テラス付近で指導員が目視して見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内外で見守りしていたが、児童の動きが目視して見守っていた。	4月から入室した児童への対応が不十分で、テラス付近で危険箇所として認識がなかった。	テラス付近は段差があり、危険箇所を指導員が持ち、全学年児童に対し危険箇所付近での児童の行動を注意を促す。	
1384	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	31								4	3	18.6歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	事故予防の話は行ってきたが、今後は事故予防の研修への参加していく。	児童館での新しい遊具(とび箱)に興味を持ち、小学生になったという思いから遊びたいという気持ちが強く、安全点検を怠っていた。	1.定期的 に実施	250	1.定期的 に実施	29	2.不定期 に実施	24	跳び箱も月2回安全点検をしております。	今後安全点検を継続していく。	3.個人活動中・見守りあり	児童館で遊んでいた遊具(とび箱)に興味を持ち、小学生になったという思いから遊びたいという気持ちが強く、安全点検を怠っていた。	小学校の授業を受けて使用する。	1.いつもの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	補助員と一緒で遊んでいた3名の子が遊んでいた。対象児は遊んでいたが、補助員は遊んでいたが、対象児が落下する瞬間に手を離した。	遊戯室には支援員と補助員の2名がいた。支援員は遊戯室で遊んでいたが、補助員は遊戯室で遊んでいたが、対象児が落下する瞬間に手を離した。	跳び箱は件で遊ぶという危険感が強かった。支援員では補助員について見守っていた。	跳び箱で遊ぶときは、必ず支援員がそばについて見守る。
1385	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	45								5	2	19.7歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	支援員等相互が、状況判断力や児童自身の危険回避能力や防衛力が高まる関わり方について事例研究を行うことで、支援力をより高めたい。	遊戯室では靴がすべるようであれば、遊戯室の靴底をふくようにしてこの確認を再度周知する。	1.定期的 に実施	開館日	1.定期的 に実施	開館日	2.不定期 に実施	-	1.集団活動中・見守りあり	夢中になり過ぎよう、声をかけながら活動するように配慮する。	1.いつもの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見渡せる位置で、けいどう鬼ごっこを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えの対応や、他の部屋の見守りについて。	支援員1名は、必ず全体の見守りを行う。			
1386	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.7.午後	3.施設敷地外(園外・公園等)	8.学童	6								2	2	20.8歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	2.基準配置	職員間で事故に係る情報共有をし、話し合いを行った。	職員間で事故に係る情報共有をし、話し合いを行った。	3.未実施	3.未実施	3.未実施	3.未実施	1.集団活動中・見守りあり	遊び場所を見直し、より安全な場所を選び、より注意して児童の見守りを行う。	1.いつもの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	1年生を中心に見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1年生を中心に見ていた。	安全を守るための研修に再度参加(以前には何人も参加した)し、児童の見守りを心がける。					
1387	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	8.学童	43								4	2	20.8歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手人差し指剥離骨折	5.他児から書かされたもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	支援員は基準通りには配置してあり、問題はなかった。	危険なゴミなどが落ちていないか、グラウンドについても定期的に点検を実施する。	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	24	1.定期的 に実施	24	1.集団活動中・見守りあり	遊びの中で危険な状況がないか、細かな声かけを行う。	1.いつもの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	支援員が危ないと言った。対象児は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時に当該児童の付近にいた支援員は1名のみだった。	児童がグループに分かれて遊んでいる際も、備りなく見守りを実施する。			
1388	平成29年6月30日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4.8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	49								4	2	21.9歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	2.基準配置	室内で動きのある活動にも関わらず靴下を着用していた。	室内で動きのある活動にも関わらず靴下を着用していた。	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	1.定期的 に実施	12	3.個人活動中・見守りあり	室内で動きのある活動にも関わらず靴下を着用していた。	室内で動きのある活動にも関わらず靴下を着用していた。	1.いつもの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	宿題を行っている児童を見ながらサッカーをしている子を見守っていた(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	宿題を行っている児童を見ながらサッカーをしている子を見守っていた(至近距離にいた)	保育の中で時間管理を行い、ルール作りを促す。		